#54

オオバノトンボソウ（ノヤマトンボ）

Platanthera minor

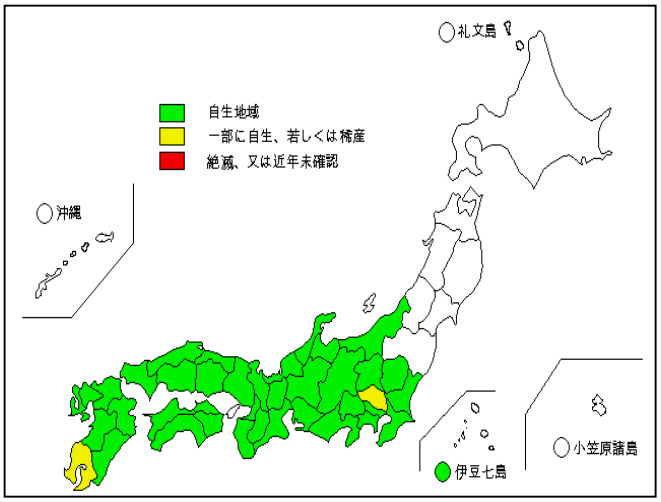
オオバノトンボソウ（愛知県奥三河　09.7/11）

福島県南部以南の全国の平地や低山帯に自生するランです。平地の明るい雑木林や林道、湿原脇の原っぱや荒地などに点在し、よく見られることから別名ノヤマトンボとも言われ、ツレサギソウ属の中では最も目にする機会の多い種です。

落葉性で冬期は地上部は枯死しており、4月頃に1枚10～15cmほどのユリ科の植物を思わせるようなやや幅広で濃緑色の葉を展開し、梅雨明けの7月頃に角ばった花茎を伸ばして薄緑色の花を複数輪咲かせます。

比較的大型で自生数も多く強健ですが、虫が媒介する軟腐病に弱いらしく、梅雨の湿気も手伝って蕾の状態で腐れてしまい咲かない株が多く見られます。

草丈は30～50cmと比較的大型で、花も緑で地味であり観賞価値は低い蘭です。（本種に限らずツレサギソウ属の蘭は地味な種類が多いです。）



東北を除く全国の低地に自生します。

花のアップ(愛知県東三河 09.07/11)

自生量は多いのですが、観賞価値が無く商用生産もされていないため売品として流通しておらず入手は困難です。

地味で大柄で特徴のない蘭なので興味本位での栽培は絶対長続きしないためお控え下さい。大変強健な蘭ですが鉢にあげると意外と神経質で、花を咲かせることと固体を長期維持することは困難です。

栽培下では増殖は望めません（自生地では100%実生で株更新をしているようです）

当分絶滅の恐れはなさそうですが、自生環境が人間の生活域に近い為、道路や宅地造成の犠牲になり、残された僅かな雑木林でひっそりと花を咲かせているのが現状です。

Document and photo by LittleFlower 2009

オオバノトンボソウの新芽(愛知県西三河 09.05/1)

オオバノトンボソウの新芽(愛知県西三河 09.05/21)

オオバノトンボソウ(愛知県東三河 09.07/5)

オオバノトンボソウ(愛知県東三河 09.07/5)

オオバノトンボソウ(愛知県東三河 09.07/5)

オオバノトンボソウ(愛知県東三河 09.07/11)

09.10/24作成

Document and photo by LittleFlower 2009